

海潮中学校の大東中学校への統合について

1. 資料概要

令和4年11月30日に海潮地区振興会長、海潮地区連合自治会長、海潮小学校PTA会長の連名で海潮中学校統合に関する要望書が提出された。

これまでの経過及び、統合に向けた方針について説明する。

2. 海潮中学校の沿革

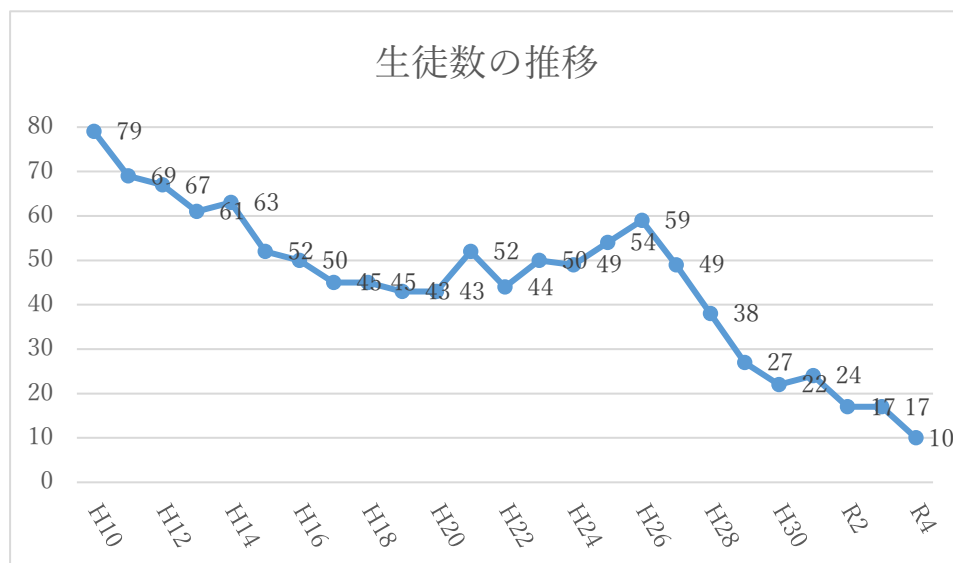
雲南市立海潮中学校は、昭和22年4月に海潮村立中学校として開校し、令和4年3月で開校から75年を迎えた。その間、3,000人を超える卒業生を送り出してきた。

【施設の概要】

所在地	雲南市大東町南村268
構造	鉄筋コンクリート造
階数	3階建
建築年	体育館：昭和61年 校舎：平成4年
床面積	3,288㎡

3. 生徒数の推移

海潮中学校の生徒数は、平成10年に79名であったものが、令和4年度には10名にまで減少している。令和4年度は1年生の入学がなく、現在は2年生（4名）と3年生（6名）が在校している。



4. 雲南市立学校適正規模適正配置計画について

雲南市では平成22年に雲南市立学校適正規模適正配置計画を策定し、学校の適正規模適正配置に関する考え方をまとめた。その中で中学校の規模は1学級20人～30人の6学級以上（1学年2学級以上）が望ましいとされた。また、海潮中学校に関しては、計画後期（平成27年度～平成31年度）に「保護者や地域住民と協議が整えば統合」としている。

さらに、「統合により廃校となった校舎の効率的な活用」「市民バス・スクールバスを活用した生徒の通学方法の検討」などの学校の統合に際して生じる課題に対して、教育委員会と関係部局が連携を図り、保護者や地域住民と協議を重ね、解決を図ることとしている。

5. 海潮地区における検討について

海潮地区において、平成28年に学校適正規模適正配置検討委員会を設置され、雲南市立学校適正規模適正配置計画の説明会や、海潮小学校及び海潮中学校PTA対象のアンケート調査、海潮地区全世帯対象のアンケート調査が行われた。この結果を踏まえ、平成29年に検討委員会で採決が行われたが、統合賛成と反対が拮抗していたため、「合意形成が図られなかったため、現時点では統合しない」との結論を出し、海潮地区振興会評議員会にその経過と結論を報告された。評議員会において地区定住人口増加のための取り組みを進め、4～5年間状況を見守ることとされた。

令和3年11月、海潮こども園、海潮小学校保護者へ統合に関するアンケート調査を実施した。その結果、統合賛成の意見が8割を超えた。その結果を受け、海潮中学校統廃合検討委員会を設置し、統合やむなしとの判断をされた。

これまでの海潮地区振興会の取り組み及び海潮中学校統廃合検討委員会での検討結果を踏まえ、海潮地区振興会評議員会に海潮中学校を大東中学校へ統合することを提案し、承認された。

令和4年2月には海潮こども園・海潮小学校・海潮中学校保護者への説明会を開催。

令和4年8月に海潮中学校統合要望委員会を設置し、統合に向けた要望事項をとりまとめ、令和4年11月30日に雲南市長及び教育長に要望書が提出された。

6. 要望書の要望項目

- 1 雲南市立海潮中学校は、令和6年3月をもって閉校とし、令和6年度より雲南市立大東中学校に統合すること。
- 2 スクールバスを運行し、生徒の通学の安全安心を確保すること。

- 3 統合後の大東中学校でも神楽部を存続し、伝統芸能が継承できるようにすること。
- 4 円滑な統合に向けて児童及び生徒への十分な配慮と支援をすること。また、保護者や地域に対し、統合による新たな負担が生じないようにすること。
- 5 統合までの期間の中学校校区を撤廃すること。
- 6 統合後の学校の利活用について検討すること。
- 7 速やかに雲南市教育委員会の考え方を説明し、海潮地区との協議の場を持つことと。

7. 総合教育会議での議論

海潮地区からの要望書の提出を受け、市長と教育委員が市の教育行政について協議する「総合教育会議」の令和4年度第1回会議が令和5年1月13日に開催され、議題を「海潮中学校の統合について」として、以下の方向性がまとめられた。

要望項目1について「海潮地区の総意として要望書は提出されているので尊重されるべき。令和6年度より大東中学校に統合することはやむを得ない」との方向性が示された。（この方向性に従い、教育委員会は統合に向けて取り組んでいく。）

要望項目5に関して、統合が決定していない現状において、校区を撤廃することはできないが、海潮小6年生及び海潮小学校等の卒業生で令和4年度に大東中学校の1年生2年生が不利益を被らないよう、指定学校変更申出の手続きにおいて「その他、特に必要と認めた場合」として許可する方針が示され、その後の教育委員会臨時会において、その取扱いとすることが決定された。

8. 今後の庁内及び学校との協議について

海潮中学校、大東中学校、海潮小学校の校長との協議を令和5年1月17日に行い、海潮中学校統合に関する協議を行った。

まずは要望項目2と要望項目3に関して、市役所と学校にそれぞれ担当者を決め、議論していくこととした。その他の要望項目についても随時、庁内及び学校との協議を行う。

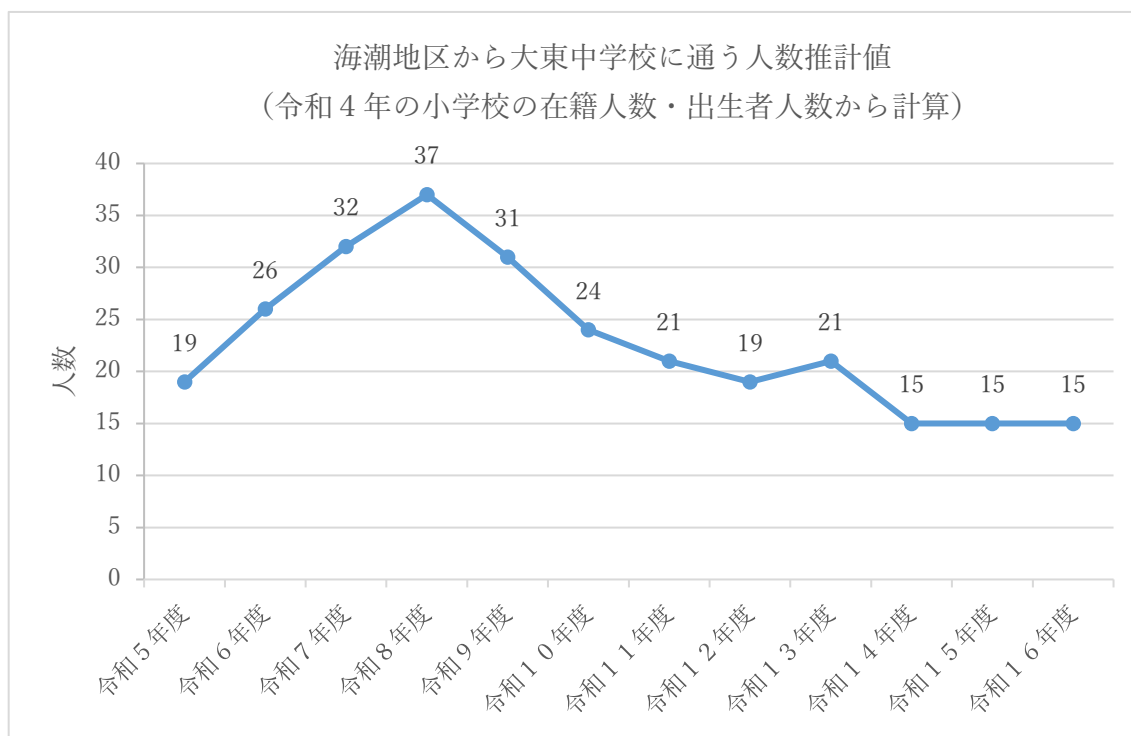
（協議状況）

・要望項目2について

グラフに示す様に海潮地区から大東中学校に通学する者の推計値でも一定

数が見込まれることから市民バスだけでなく地元タクシー事業者の協力や、スクールバスの配置が必要になる可能性もある。

しかしながら、予算措置及びバスの納車時期が課題であるため、令和6年度当初からスクールバスを配置することは難しいと考えられる。



・要望項目3について

令和5年度海潮中学校神楽部は部員3名での活動となる。海潮小学校5・6年生に声をかけ、活動することとなる。令和6年度に大東中学校で神楽部を設立する場合には、練習場所の確保、神楽部となると海潮以外の子どもの入部も考えられるなど課題は多い。今後、振興会と協議を重ね、地域の思いを聞くことや神楽部存続のイメージの共有、学校部活動としてできること・できないことを確認し、すり合わせを行っていく。

9. 統合に向けた市の方針（案）について

市では、以下の内容を「海潮中学校の大東中学校への統合」に対する市の方針（案）として決定した。その方針（案）を議会に示すとともに、それに沿って海潮地区と協議を行い、協議を整えた上で、教育委員会において統合を決定する。

【統合方針（案）】

雲南市立海潮中学校は、令和6年3月をもって閉校とし、令和6年度より雲南市立大東中学校に統合する。

【海潮中学校の大東中学校への統合に向けた取り組みの考え方】

- 学校との連携を密にし、円滑な統合に向け、児童・生徒及び保護者に対する十分な配慮を行う。
- 生徒が安全安心に通学できる様、地域の実情や必要性に応じた通学方法を確保する。
- 神楽部の活動など、伝統文化の継承が図られる様、その方法について検討する。
- 庁内関係部局および海潮地区と協議し、統合後の学校施設の有効活用を検討する。

10. 今後のスケジュール（案）

- 2月下旬～ 住民説明会
- 3月中旬 教育民生常任委員会
- 3月下旬 教育委員会定例会（協議が整えば統合を決定）